総合病院浅香山病院 臨床研究研修センター

センター便り

2026年
冬号 No.29
バックナンバーはこちらから▶

公益財団法人浅香山病院 臨床研究研修センター
〒590-0018 大阪府堺市堺区今池町3丁3番16号
TEL：072-229-4882（代）
ホームページアドレス：https://www.asakayama.or.jp

臨床心理室のこれまでと現在

臨床心理室 室長　公認心理師　小辻（こつじ）　希世子（きよこ）

昭和から平成の初め

浅香山病院の臨床心理室の歴史は古く、昭和28年（1953年)に常勤の心理職が入職しています。早い時期からの常勤採用は当院の多職種連携を大切にする土壌の賜物と思われます。

当時の心理士の業務としては、その頃が導入初期のロールシャッハテスト（心理検査）を、医局の医師と共に学びながら、入院患者さんに積極的に行っていました。個人の心理療法についても、昭和30年頃から、医局の指導を受けながら勉強会を重ね、入院中の精神分裂病（現在の統合失調症）の患者さんを中心に開始されたとのことです。その後、病院の社会復帰への意欲的な取り組みや、外来患者さんの受診の増加に伴い、心理療法の対象も入院から外来に、患者さんの病態も精神病圏からパーソナリティ障害等に移行していきました。その他にも多職種との協働で、病棟カンファレンスへの参加、手話クラブ（ACCクラブ活動）や音楽クラブ（デイケア活動）への協力、病棟レクリエーション活動への参加など多岐にわたる業務を担っていました。また、男性心理士は中間施設「あけぼの寮」の当直があり、入寮患者さんの生活場面では様々な面白・大変なエピソード（キャベツ釣りや水着姿の訪問等）があったことを伝え聞いています。

ここからは、中心である業務の心理療法・心理検査についてそれぞれご紹介していきます。

心理療法（個人・集団）

臨床心理室では、いわゆるカウンセリングに相当する個人心理相談に意欲的に取り組んできました。小児科があった時期には、母子並行面接のプレイセラピーで箱庭療法も取り入れています。箱庭の砂箱は営繕係で作成していただいたもので、使用するアイテムには紙粘土や陶器の手作りの物が残っており、歴史が感じられます。個人心理相談では、患者さん個々の様々な症状や悩みに対応するために、特定の治療法を専門的に行うことを中心にはしてきませんでした。病理の重い事例では現実的・具体的なテーマにとどまることが多い中で、個々には認知行動療法の要素を取り入れたり、精神分析的な心理療法を行ったり、自律訓練法を導入したりする事例もあります。患者さんの動機付け・テーマに合わせて、どのような技法を用いるかを今後も考えながら取り組んでいきたいと思います。緩和ケア病棟の開棟後は、がん患者さんや家族への介入「心理ケア」を開始しました。終末期のがん患者さんとの交流は、精神科での継続的な個人心理療法とは少し異なり、短期間での危機介入的な要素の強い「こころの支援」となっています。

集団精神療法はグループの効果を用いた複数の患者さんへの介入です。平成の半ばには、外来にて統合失調症患者さんを中心とした自由参加原則の『心理オープンクラス』、抑うつ症状の強い患者さんの『スラッガークラブ（良く打つ）』、長期入院の統合失調症患者さんの『スイートコーヒー』グループを長年行ってきました。いずれも会話を中心としたグループです。『心理オープンクラス』のメンバーから自然発生的に『喫茶アカシア』活動（本館１階集団心理室）が始まったのは、集団の体験が主体性の回復につながったことを示します。緩やかな交流場面の設定は、A館急性期病棟の心理士による喫茶活動にもつながっていきました。その後も病棟の機能分化に合わせて、認知症治療病棟で『回想法』、救急病棟で『統合失調症の心理教育』等を現在に至るまで多職種協働で運営しています。最近では、慢性期の保護室エリアでのグループも立ち上げています。グループという社会的な場面で見られるいつもと違う顔や発言は、患者さん理解の幅を広げると共に、参加スタッフのやりがいにもつながっていると感じます。集団精神療法として行われるグループに限らず、病棟も治療チームも大きく一つのグループとして捉える集団の力動を考える視点を、臨床心理室では以前から大切にしてきています。

心理検査

心理検査の中では、前述のロールシャッハテストを多く取り組んできた歴史がありました。しかし、昨今は認知症疾患医療センターの鑑別診断のための認知機能検査と、発達障害（神経発達症）の診断補助としての知能検査の件数が大きく増加しています。ｒTMS治療の評価にも心理検査は用いられています。臨床心理

室の業務全体においても、心理検査の割合は高くなってきています。心理検査の結果を含めた臨床心理学的なアセスメントは、今後も様々な支援の場面で必要とされると思われます。

現在の臨床心理室の姿は多くの先輩方の作った歴史を土台としており、「公認心理師」資格も、全国保健・医療・福祉心理職能協会の会長を務めた先輩心理士の尽力がなくては成立が叶わなかったものです。この環境の中で令和の若手心理士達が、臨床の力を伸ばしていくことを期待しています。

医療現場における公認心理師の役割

臨床心理室 主任　公認心理師　滝谷（たきや）　七重（ななえ）

はじめに

みなさんは「公認心理師」をご存知でしょうか？公認会計士みたい？臨床心理士？心理療法士？など、なんだかよく分からない名称かもしれません。今回は公認心理師についてご紹介したいと思います。

公認心理師の役割

公認心理師は、国民が抱える心の健康をめぐる状況を踏まえて、2017年に誕生した新しい国家資格です。主な業務は以下の４つです。

①心理に関する支援を要する者の心理状態の観察、その結果の分析
②心理に関する支援を要する者に対する、その心理に関する相談及び助言、指導その他の援助
③心理に関する支援を要する者の関係者に対する相談及び助言、指導その他の援助
④心の健康に関する知識の普及を図るための教育及び情報の提供

法律上は、支援の対象を「心理に関する支援を要する者」としており、精神科の診断の有無にかかわらず、広く国民を支援の対象としているという特徴があります。

①は心理アセスメントとよばれるもので、当院でも多く実施している認知機能検査や性格検査などの心理検査が含まれます。また心理アセスメントとは、心理検査に限定したものではなく、会話や行動などからも心理状態や行動特性などをアセスメントしています。

②は、いわゆるカウンセリングにあたります。心理療法と言ったり心理相談、心理支援と言ったりして、呼び方はそれぞれの機関で異なります。当院では年間1,120件のカウンセリングを行っています（2024年度）。

③は関係者との連携です。院内の多職種カンファレンスや院外の関係機関とのケア会議おいて、患者さまの心理面について見立てをしながら理解を深めたり、必要となる支援について一緒に検討するなど、積極的に連携を図っています。

④はこころの病にかかっているかどうかに関わらず、広く国民のこころの健康の保持増進する役割を指しています。当院では職員向けに「心理室便り」を随時発行したり、地域や専門家向けの研修会の講師を引き受けています。

公認心理師の配置状況

現在は73,743人の公認心理師が登録されています（2025年３月末）。当院の臨床心理室には９名の公認心理師が在籍しています。心理職は１人だけだったり、全くいないという医療機関も多い中で、これだけ多くの心理師が在籍しているのは、浅香山病院が多層的で質の高いチーム医療を提供しようとしているあらわれだと感じます。当院では1953年から臨床心理技術者が雇用されており、これは全国的に最も古いようです。また、デイケアに１名、アンダンテにも２名の公認心理師が在籍しており、入院治療から通院、地域生活の支援において、心理的な支援を必要とされる方のニーズに応えようと日々奮闘しています。

臨床心理士との違い

では公認心理師と臨床心理士はどのように違うのでしょうか。「臨床心理士」は、1988年に日本臨床心理士資格認定協会による認定資格として誕生しました。1995年からは文部省のスクールカウンセラー事業により活躍するようになりその名が全国的に知られるようになりました。臨床心理士は民間の資格であり、協会が認定した大学院で臨床心理学を２年間修め、認定試験に合格した者となります。５年ごとの更新制のため、専門家としての資質の向上に継続的に取り組んでいるのが特徴です。当院でも、ほとんどが公認心理師とのダブルライセンス保有者です。

一方で、公認心理師は、大学、大学院の６年間を通して心理学を学んだ者が国家資格試験に合格して登録される資格です。また、成り立ちの経緯から、厚生労働省と文部科学省との共管による資格という特徴もあります。

当院における公認心理師の役割

ようやく国家資格化されたことで当院でもチーム医療の一員として、法律上の裏付けのある職種として責任を持った職務を果たすことができるようになりました。精神科12病棟、一般科７病棟を９名の公認心理師で担当しており、入院と外来ともに心理検査を実施したり、患者様の心理面の見立てをチームで共有しながら治療を進めています。また精神科病棟では、心理教育や回想法などの「入院集団精神療法」を行っています。一般科においては緩和ケア病棟での個別支援として「心理ケア」を行っています。

また外来で、2020年には「小児特定疾患カウンセリン

グ料（200点）」として、小児科・心療内科を標榜する医師の指示の下で公認心理師が単独で行うカウンセリングが初めて新設され、長年望まれてきた心理支援に関する診療報酬化が始まりました。2024年には、心的外傷（トラウマ）に起因する症状をもつ患者に対する「心理支援加算（250点）」も新設され、精神科を担当する医師の指示の下、公認心理師が30分以上の心理支援を行った場合に算定できるようになりました。当院でも対象となる外来患者さまに実施しています。

今後も、薬物療法のみでは充分な効果が得られにくい精神障害や身体疾患のケアに関する心理支援が求められると考えられ、これらのニーズに応えられるよう努めていきたいと考えています。

研究や投稿を振り返って～『浅香山病院医学雑誌第４号』優秀論文賞・優秀エッセイ賞受賞～

理事長賞（優秀論文賞）
「浅香山病院における治療抵抗性統合失調症へのクロザピン使用状況と課題」

浅香山医学vol.4：43-48，2025

精神科部長　眞本（まもと）　晶子（あきこ）

この度は、優秀論文賞を賜りましてありがとうございました。この論文は、浅香山病院でのクロザピン治療について検討したものです。以前から携わっているクロザピン治療について、いつかまとめなくてはと思っていたところを、再び、篠崎先生に背中を押していただき書くことができました。何をしたらよいかわからないまま、これまでの症例のカルテを紐解きながら、エクセルに情報を入力していくところから始めました。不注意で綿密な作業の苦手な私には、かなり骨の折れる作業でした。また、途中で「こんなことがあった！」「〇〇さん、こんなこと言ってたな」「あのときこうしていれば」など、データ入力をしばし横に置いて、考えごとをしてしまいさらに時間がかかりました。しかし、そのようにして出来上がったデータはとても大切なものに感じられました。そこから、平均値を出してみたり、転帰を仕分けしてみたりしました。そうするうちに、ぼんやりと「こんな感じかな」と思っていたクロザピンの特徴や治療効果が数値にも裏付けされていることを発見しました。次にはその小さな「発見」を読んでくださる方に正確に伝えられるように文章化しました。他の研究との比較も必要なので、他の論文も読む機会になりました。また、精神科臨床には、私では数値にできないことがたくさんあるので、どちらかというと本来はそのことを伝えたいという気持ちが大きいので、そのエッセンスも入れるようにしました。

そうしてできあがった論文を査読の先生方に読んでいただき、病院雑誌に掲載していただきました。このように有形のものをつくる作業は、学びの機会にもなり、日々の臨床のなかでクロザピンを使う根拠や対象選択がより明確になったと感じています。

最後になりましたが、いつもお声掛けくださる篠崎先生、つたない論文を読んでいただいた査読の先生方、様々な締め切りをきちんと守れずご迷惑をかけてしまった経営企画室の方々、そしてこの論文の基礎にある臨床で出会う患者さんたち、治療に共にとり組んでくださっているスタッフの皆さんに、改めて感謝したいと思います。ありがとうございました。

委員会賞（優秀エッセイ賞）
「わすれられないことはわすれてはいけないこと」

浅香山医学vol.4：130-131，2025

精神科副院長/臨床研究研修センター副センター長　正木（まさき）　慶大（よしひろ）

この度は優秀エッセイ賞をいただき驚いております。私自身は編集委員であり、利益相反のため受賞は「ない」と思っておりました。それ故に受賞できたことは大変光栄です。医学雑誌４号には「症例」「研修医、専攻医からの臨床疑問に答えるコーナー」にも投稿をしましたが、実際エッセイが一番苦労した作品です。エッセイの指定文字数は一番少ない2,000字ですが、自分の気持ちを文章にしたら最初5,000字を超えてしまい、そこから削りに削った次第です。今思うと逆にそれが良かったのかもしれません。

内容は旧知の後輩精神科医師が難病になり、自分の無知や無力さを思い知り、また希望がほぼない中で、表向きは治療選択を提示するが実際的には遺された家族との時間をなくしてもよいのかというジレンマに私自身が悩んだ体験を文章にしました。精神科医ですが専門外でも調べれば疾患の概要は理解できます。病気の内容より自分のよく知る人物がこの世からいなく日が間もなく来ることがわかり、彼もそれを知っていて私に相談してくるという極めて異例な状況でした。実は最初は「厄介な病気になりました」程度の話しかなく、詳細な診断名を聞かされたのは緩和に行くという決意を聞いた時でした。もちろん文献にある絶望的な内容を見たことも理由ですが、猪突猛進の彼がこの悲しい事実を病気と闘いながら悩み、声をかけなければこの世から何も言わないで、足も止めないで立ち去ろうとしていたのかと思うと、涙があふれました。今までの人生で最も難しく、そして悲しい相談でした。ただ今回文章にまとめるということで、自分の気持ちが昇華できた気がします。そして今回エッセイを書いてたくさんの方から様々な感想をいただき、自分が進むべき方向性を確信できるようになりました。

エッセイは自分が日常の診療の中で悩んだこと、そして感じたこともそうですが、私のように悩み、それを昇華したい時にも書いてみてよいものだと思います。悩んでいる方は是非第５号に投稿のほどよろしくお願いいたします。

浅香山病院 学会・研究会発表等

（2025年10月～2025年12月実績）

■学会・研究会

	種類	発表（演題）名	発表者名	所属	会　名	発表年月日
1	学会･研究会発表	トリアムシノロンアセトニド腱鞘内注射による小指屈筋腱断裂が起こった１例	岡本 幸太郎	整	第145回中部日本整形外科災害外科学会・学術集会	2025/10/3
2		当院精神科身体合併症病棟と精神科以外の診療科病棟患者の理学療法効果を比較し、地域復帰への課題を考察する	坂口 英隆	リ	第12回日本地域理学療法学会学術大会	2025/10/11
3		排泄介助時に理解が出来ず抵抗してしまう患者にカンフォータブル・ケアを活用することによる患者及びスタッフへの効果	川﨑 悠哉、鯉田 伸男、細川 綾香	看	一般社団法人日本精神科看護協会 大阪府支部「令和７年度看護研究発表会」	2025/10/24
4		精神科救急急性期医療入院料病棟で行う看護面談と看護師の思い・質的研究	大石 健司、西川 毅	看	一般社団法人日本精神科看護協会 大阪府支部「令和７年度看護研究発表会」	2025/10/24
5		令和６年能登半島地震発災後における複数の情報源を用いた感染症サーベイランス活動	塩本 高之、加藤 博史、津田 侑子、金﨑 美奈子、北岡 政美、木村 慎吾、塚田 敬子、福住 宗久、小林 祐介、山岸 拓也、島田 恵、砂川 富正	感	第84回日本公衆衛生学会総会	2025/10/30
6		どう考える？身体治療における行動制限最小化	大谷 朋耶	看	一般社団法人日本精神科看護協会「第32回 日本精神科看護専門学術集会in福島 ワークショップ」	2025/11/1
7		総合病院（精神科・一般科診療）が担う地域での役割と課題 ～連携を活かした活動事例を通して～	佐々木 真由美、金﨑 美奈子	感	第８回精神科感染制御セミナー	2025/11/2
8		入院患者の結核早期発見に向けた取り組み	佐々木 真由美	感	第23回大阪病院学会	2025/11/9
9		臨床倫理コンサルテーションチーム発足後３年間の実践報告	国本 京美 他（CECメンバー）	臨	第23回大阪病院学会	2025/11/9
10		アントンセン氏Ⅰ法の補助具作成と使用の試み	山本 真吾	放	第23回大阪病院学会	2025/11/9
11		浅香山病院の若年性認知症を対象とした居場所支援「ラフラフ」における多職種連携	中山 愛梨、濵田 麻祐子、勝田 紳太郎、比良 美千代、夘山 裕美、小辻 希世子、永井 綾菜、山本 朝美、三好 豊子、深水 泰宏、石塚 拓也、繁信 和恵	心	第49回高次脳機能学会学術総会	2025/11/15
12		混乱と暴力の中で生きてきた青年期患者のバウム	山岸 礼門	心	2025年度大阪府臨床心理士会合同研修会	2025/11/16
13		総合病院浅香山病院における身体治療場面での持効性注射剤、クロザピンの状況	正木 慶大、嶋 健作、東尾 康倫、三谷 政利、繁信（釜江）和恵	精	第38回日本総合病院精神医学会総会	2025/11/22
14		高齢出産で第４子出産後，児への愛着を示さなくなり精神科介入を要した１例	中川 千幸、篠塚 淳、高原 得栄、正木 慶大	精	第38回日本総合病院精神医学会総会	2025/11/22
15		シンポジウム「認知症疾患医療センターの現在と未来」これからの認知症疾患医療センターの役割～地域連携の拠点としての役割～	繁信 和恵	精	第44回日本認知症学会	2025/11/23
16		精神科病棟での終末期におけるケア選択の過程	金海 昌秀、湯川 知子、宮地 美祐、曽根 洋子	看	公益社団法人大阪府看護協会「第13回大阪府看護学会」	2025/12/6
17	講演･講師･座長	第３群	大谷 美希（座長）	看	一般社団法人日本精神科看護協会大阪府支部「令和７年度看護研究発表会」	2025/10/24
18		rTMSにおける役割とモニタリングの留意点 ～外来看護師の視点から～	佃 智子	看	公益社団法人日本精神神経学会「第14回反復経頭蓋磁気刺激（rTMS）講習会」	2025/10/26
19		透析患者の歩行を守るためのコメディカルのかかわり	神野 卓也	工	第３回堺−南大阪 腎代替療法地域連携の会 ～患者に寄り添った透析療法とは～	2025/10/30
20		認知症４大疾患、せん妄における症状や対応方法等	三好 豊子	看	大阪府社会福祉事業団「令和７年度 堺市看護職員認知症対応力向上研修・病院勤務の医療従事者向け認知症対応力向上研修」	2025/10/31
21		小学生のための「ねむる力」	篠崎 和弘	臨	神戸市千鳥が丘小学校・睡眠健康推進機構	2025/11/6
22		診療放射線演題（７演題）	柏原 誠（座長）	放	第23回大阪病院学会	2025/11/9
23		これからの時期に注意が必要な感染症について ～訪問時の感染対策やいざという時の対応等を共有しよう～	金﨑 美奈子	感	堺市北区ケアマネージャー協議会感染対策研修会	2025/11/13
24		一般口演（臨床）統合失調症４	篠崎 和弘（座長）	臨	BPCNPNP2025（第47回日本生物学的精神医学会/第35回日本臨床精神神経薬理学会/第55回日本神経精神薬理学会 合同年会	2025/11/14
25		手術を受ける患者･家族の理解とケア	川﨑 恵理子	看	兵庫医科大学臨床教育統括センター「認定看護師教育課程（手術看護分野）」	2025/11/20
26		退院支援につながる！明日から使える患者中心のケアモデル	島津 聖子	看	一般社団法人日本精神科看護協会大阪府支部「退院調整研修会」	2025/11/22
27		精神科病院における感染症対策と地域連携	金﨑 美奈子	感	茨城県土浦保健所管内 精神科病院における感染症対策研修会	2025/12/2
28		OSCE講師	東 大輔	リ	履正社国際医療スポーツ専門学校	2025/12/7
29		身体合併症をテーマに、精神科認定看護師の資格取得後の活動を考える	大谷 朋耶	看	一般社団法人日本精神科看護協会「精神科認定看護師 認定志願者グループ学習会」	2025/12/7
31		医療安全・認知症ケアの充実等	三好 豊子	看	大阪府社会福祉事業団「令和７年度 堺市看護職員認知症対応力向上研修」	2025/12/10
30		支援に繋げるための若年性認知症の基礎知識	繁信 和恵	精	大阪府 若年性認知症の医学的知識に関する研修会	2025/12/15
32		障害者虐待について	大谷 美希	看	一般社団法人日本精神科看護協会大阪府支部「看護倫理指導者養成研修会」	2025/12/20
33		精神医学Ⅱ	正木 慶大	精	森ノ宮医療大学 作業療法学科	15回
34		神経・生理心理学	正木 慶大	精	神戸女子大学 心理学部	11回
35		精神医学	正木 慶大	精	大阪医専 言語聴覚療法学科	12回
36	その他	身体合併症～心と体を支えるケア～	大谷 朋耶（パネリスト）	看	一般社団法人日本精神科看護協会「第32回日本精神科看護専門学術集会in福島」	2025/11/1

■論文・著書

	論文・著書名	著者（全員）	所属	誌名、巻：ページ，年
1	注意欠如･多動症の診断バイオマーカーとしてのQEEG検査の現状と問題点（臨床神経生理学会 神経精神疾患バイオマーカー検討委員会報告）	宮内 哲、大栗 聖由、太田 克也、菊知 充、後藤 純信、篠崎 和弘、高木 俊輔、野田 賀大、星 詳子、矢部 博興、吉村 匡史、渡邊 雅子	臨	臨床神経生理学，53（6）：694-700,2025
2	精神病床を有する病院においてオミクロン流行期のSARS-CoV-2の感染伝播を制御するために考慮すべき対策	金﨑 美奈子、土橋 酉紀、黒須 一見、糠信 憲明、鈴木 健一、西村 和子、山岸 拓也、中下 愛実、砂川 富正	感	環境感染雑誌、40（6）：281-291,2025
3	Comprehensive epidemiological analysis of severe fever with thrombocytopenia syndrome in Japan, 2013—2023:descriptive observational study	omohiro Ohno,Hirofumi Kato,Yusuke Kobayashi, Masami Kitaoka,Minako Kanesaki,Shimpei Murai, Masaru Jinushi,Mitsuki Aoki,Takuri Takahashi, Tomoe Shimada,Taro	感	The Lancet Regional Health-Western Pacific, 65：101747,2025
4	多周波数生体電気インピーダンス装置を用いた血液透析患者におけるドライウェイトの個別設定に関する検討	神野 卓也、天野 晃輔、大塚 愛呼、金田 綾夏、島田 久生、岡﨑 瑞江、鶴﨑 清之	工	透析会誌、58（11）：496-504,2025

■主催講演会

	講演会・勉強会名	演題名	講師名	開催年月日
1	CKD（慢性腎臓病）教室	運動塾 ー体力測定ー	濱田 拓空	2025/10/4
2	第14回浅香山精神科研究会	講演１：転院後、多職種の関わりにより、経口摂取が可能となった若年性アルツハイマー型認知症 講演２：アルツハイマー型認知症のBPSDとその治療	講演１：三宅 瑞穂 講演２：橋本 衛（近畿大学医学部精神神経科学教室）	2025/11/29
3	CKD（慢性腎臓病）教室	腎臓に関する検査について	西川 理恵子	2025/12/6

■研修医による学会・研修会発表

	発表（演題）名	発表者名	会名	発表年月日
1	原発不明縦郭リンパ節癌によりTrousseau症候群を呈した1例	長山 透流、田村 聡一郎、田中 梨穂子、添田 さつき、織田 茂哉、大村 崇、渡邊 芳久、田原 旭	日本内科学会第250回近畿地方会	2025/12/6
2	尿路感染症の診断で入院した劇症型溶血性連鎖球菌感染症の1例	雲山 連太郎、渡邊 晃弘、関 萌子、岡原 一樹、三重野 将敏、野口 篤志、大村 崇、渡辺 芳久、田原 旭	日本内科学会第250回近畿地方会	2025/12/6
3	肺炎を契機に膠原病が疑われた1例	鹿野 祐加	第75回プライマリ・ケア合同カンファレンス	2025/12/18

所属：整（整形外科）、精（精神科）、リ（リハビリテーション室）、看（看護部）、感（感染管理室）、臨（臨床研究研修センター）、放（放射線室）、心（臨床心理室）、工（透析臨床工学室）